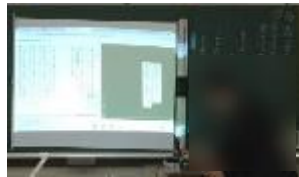



- (1) ねらい 作り方の説明の工夫を見つける活動を通して、順序を示す言葉、具体的な数字、写真や絵があることに気づき、順序を示す言葉の順序性の重要性を理解することができる。
- (2) 評価規準 おもちやの作り方から、順序を示す言葉、具体的な数字、写真や絵があると分かりやすいことに気づき、特に、順序を示す言葉の順序性の重要性を理解している。(思考・判断・表現)
- (3) 学習展開 (4/14)

過程	学習活動	教師の指導・援助（留意点）
導入	<p>1 本文を音読する。</p> <p>2 馬のおもちやを作った感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>足の部分を切るところが難しかったよ。</li> <li>ホッチキスでとめたらしっかりとまったよ。</li> <li>教科書をよく読んだら、上手にできたよ。</li> </ul> <p>〈作り方〉のせつめいのくふうを見つけよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習を振り返り、課題化につなげる。</li> <li>範読では、順序を示す言葉や具体的な数字など、気付かせたい言葉に変化を付けながら読む。</li> <li>児童は、分かりやすいと感じた部分に前時までにも線を引いているが、ここでもなるべく短く線を引くよう声かけをする。</li> </ul>
展開	<p>3 範読を聞きながら、説明の工夫を見つけて線を引く。</p> <p>4 見つけた工夫とその理由をプリントに書く。</p> <p>5 全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「それから、馬のあしを作ります」というところが分かりやすかったです。どうしてかという、「それから」という言葉で作る順が分かったからです。</li> <li>「4センチメートルぐらい」というところが説明の工夫だと思いました。どうしてかという、長さが書いてあってちょうどよい長さに切ることができたからです。</li> <li>写真があった方が分かりやすいと思います。どうしてかという文の中にも「しゃしんのように」と書いてあるからです。</li> </ul>	<p>【ICT活用の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教科書のマイ黒板を使い、プロジェクターに児童の考え（説明の工夫）を映し出す。</li> </ul> 
終末	<p>6 深めの発問をし、スクールタクトで文章の並び替えを行う。</p> <p>「まず」「つぎに」「それから」「さいごに」の順序でないとだめなのか考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>順番が分かる言葉の順番を変えてはいけないと思います。わけは順番が分かる言葉の順番が変わると、おもちやを正しく作ることができないからです。</li> </ul> <p>7 分かったことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>説明するときには順番が分かる言葉を順に使うとよい。</li> <li>何センチメートルのように数字も書くとよい。</li> <li>写真や絵を使うと分かりやすい。</li> </ul> <p>説明する文を書くときには、<b>順番が分かる言葉</b>と<b>数字</b>と<b>写真や絵</b>を使うという工夫があった。特に順序を表す言葉は、順に使うと<b>分かりやすい</b>。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①順序を示す言葉</li> <li>②具体的な数字</li> <li>③写真や絵を活用した情報の3点に着目させる。見付けたことをプリントに書く際に理由を示す「どうしてかという」とを使って「考え方」を書くことができるようにする。</li> </ul> <p>【ICT活用の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スクールタクトに順序の言葉を強調した文章をバラバラに並べておき、正しい順序に並べ替えて、順序を示す言葉の分かりやすさを実感する。また、根拠を音声入力で記入する。</li> </ul> 

【検証：期待される学習効果】

- 教師用のデジタル教科書を使って、児童の着目した言葉をキーワードとして抜き出し、スクリーン上に示すことで、発表内容を視覚的に捉え、仲間の考えや自分の考えを確認することができる。
- 終末時に「順序」が分かる言葉を使った文を並び替え、そこに根拠を書かせることで、本時の定着度を図ることができる。その際、入力方法を「手書き入力」「音声入力」で選択させることで、主体的に学ぶ姿を生み出す。